

氏名	江 草 正 彦
授与した学位	博 士
専攻分野の名称	医 学
学位授与番号	博乙第3467号
学位授与の日付	平成12年6月30日
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 (学位規則第4条第2項該当)
学位論文題目	要介護高齢者における口臭とその関連要因及び予防対策に関する研究
論文審査委員	教授 吉良 尚平 教授 辻 孝夫 教授 谷崎 勝朗

#### 学 位 論 文 内 容 の 要 旨

高齢者施設や在宅の要介護高齢者を対象に、心身や口腔歯科保健・衛生関連の事項について、口臭関連の現状と要因及び予防対策を明らかにする目的で本研究をおこなった。

いずれの口臭状況に関する分析結果においても、歯の健康状態は関連要因として上位には抽出されず、むしろ口腔保健に関する自立度、高齢者の介護状況、歯肉や舌の衛生状況などが抽出されており、口臭問題の解決策を考える上で考慮すべき結果と思われる。

口臭予防や改善を進める上では、要介護者自身の健康問題に併せて、介護者や施設の口腔保健衛生への関わりやケアやケアのあり方が重要であることを示すものであった。今後、口臭予防や指導を効果的に推進するためには、口臭と関連する要因として認められた問題点を解決していくことは勿論であるが、多変量解析で抽出された口臭関連の心身および口腔保健・衛生状況の結果を併せて考慮し、適正かつ包括的なアプローチがなされるべきだと考えられる。そのため口臭対策は要介護高齢者の口腔清掃や関連するADLの把握や分析評価を行うだけでなく、施設別、あるいは在宅での要介護者に対する口腔介護状況を考え併せてケアやケアを進めていく必要がある。

#### 論 文 審 査 結 果 の 要 旨

本研究は、高齢者施設や在宅要介護者を対象に、口臭関連の現状と要因を林式数量化第2類（判別関数）で解析し、その予防対策を考察することを目的とした調査研究である。口臭の現状に関連する要因としては、歯の健康状態よりもむしろ要介護者自身の口腔保健に関する自立度や歯肉や舌の衛生状態とともに、介護の受けかたの状況の因子が抽出された。従って口臭予防や改善を進める上では、要介護者自身の健康問題に加えて介護者や施設の口腔衛生への関わりや、ケアやケアのあり方が重要であることを指摘している。審査の結果、本研究は口臭対策を通じて高齢要介護者のQOLを維持するための方策を立案に有用な業績と認められた。よって本研究は博士（医学）の学位を得る資格があると認める。